

おやじ、おかんへ 届ける俺

15年前に両親が自殺 大阪の上田順平さん

大阪市東淀川区の上田順平さん(36)は15年前、両親を相次いで自殺で亡くした。いま結婚して父親になり、募る亡き父と母への思いを写真に託して表した。年明けの大阪で写真展「手紙」を開く。



上田さんと長女真綾ちゃん



真綾ちゃんを出産直後の妻香織さん=2010年11月

1月5日から写真展

1998年の暮れ、フリーターだった上田さんはバックパッカーでタイを旅していた。日本を出発して約1カ月後、自宅に電話すると兄が出た。「戻ってこい」。帰国して両親の遺影に向き合った。父の葬儀が終わった直後だった。

母あけみさん49歳、父保夫



自宅前で上田さんを抱く父の保夫さんと母あけみさん=1977年

なあ、知ってる？ 結婚してん 子供うまれてん

さん51歳。母は更年期障害から不眠を訴え、うつ病になった。兄は独立して家を出ており、相談相手はもっぱら上田さんだった。

症状の改善をみてタイに旅立って間もなくの11月28日、母は近くのマンションから飛び降りた。父も10日後に自宅で命を絶った。ともに遺書はなかった。

「順平がおったら死なへんかったやろなあ」。母の死後、



いつも恋人同士のようにだった父と母=1991年8月



母を描いた父の油絵は、今も自宅に飾られている

父は兄にそう話していたという。駅の売店で売り子をしていた母に父がひとめぼれして口説いた。いつも恋人のようだった。カメラを向ければ母は父の腕をとった。油彩が趣味の父は母をモデルに絵を描いた。ひとり残された家には、いくつもの母の肖像画や家族写真が壁に掛かっていた。テレビ局のカメラマン助手を経て、兄が継いだ家業の新聞配達業を手伝うように。2009年に友人の紹介で知り合った香織さん(37)と結婚。香織さんが妊娠した頃から趣味のカメラを再び手にした。長女真綾ちゃん(3)の無邪気なしぐさを見て、両親も自分を同じように見ていたのだろうと思う。娘を通じてふたりと会っているような気になる。ふたりの子として生まれながら今があると思う。

幼少期の自分や家族の写真、部屋の風景や父の油彩、新たな家族の写真50点を今年「手紙」と題して東京、大阪で出展した。「家族愛の意味を問う優れた作品」と評価され、大手カメラメーカー・ニコンが若手写真家のサロン「ユーナ21」の出品作から選ぶ最優秀作「三木淳賞」を受賞。記念展が1月5〜15日、大阪市北区のニコンサロンbis大阪で開かれる。

展示作品の最後に「おやじとおかんへ」の手紙を添える。「なあ、知ってる？俺、結婚してん」

「なあ、知ってる？俺ら子供うまれて今2歳やねん(原文のまま)」
「なあ、知ってる？俺、生きてて良かったわ」
「ふたりの子供にうんでくれて、ありがとう」

(机美鈴)